

もしも無人島に何かひとつだけ持っていくとしたら、  
あなたは何を持って行きますか

## 無人島

Ryota Kikuchi

人物

東

A 個人的に話をまとめる

B 人をまとめようとする

南

C 挑戦をするロミオ的人物

D 恋をする

西

E 出来事を記憶する私

F 自分を記憶するジュリエット的人物

北

G 世界を語る孤独な個人

H 島を語る

他意識

自分とは、自意識のある他人である。

他人とは、無意識のある自分である。

本作品の著作権は、作者である菊池亮太に帰属しています。上演や公開、転載をご希望される場合は有償無償に関わらず、必ず一か月前までに作者、又は作者所属劇団までお問い合わせ下さい。上演希望の際は、確認次第、台本データを編集可能な形式でお送り致します。上演に際しまして、演出や脚本の改編は問いません。

《上演料金の例 劇場席数×公演回数×チケット前売り料金(単位…円)×5%》  
尚、上演料金が無償の場合は、チケット前売り料金に0を代入します。

印刷された台本の落丁、汚れ、誤字等による交換等は致しかねます。ご了承下さい。  
不都合のある場合はメール、又は劇団HPよりお問い合わせ頂ければ、確認次第、改訂版のデータを お送りさせていただきます。

その他、ご不明な点やご質問等のお問い合わせは下記アドレスまでお寄せ下さい。

劇団 身体言語 Body Language Artists Company

メールアドレス kikuchimethod@outlook.jp

A、B、登場、別々のことをしている  
 C、D、登場、別々のことをしている  
 E、F、登場、別々のことをしている  
 G、H、登場、別々のことをしている  
 登場人物たちは不干渉に同時存在する

H、立つ

H 何年も、うん、もしかしたら、何十年も、先の、話になるんだけど、百億人の人が住む、って言われてる、無人島についての、お話。たぶん、この話を聞く人たちは、あんまりピンと来ないと思う。私たちも、ピンと来ないから。百億人くらいの人たちが、同じ島に漂流して、その中に、私たちもいて、今とあの頃は、だいぶ違う暮らしになってると思うんだけど、私たちは、その島に、その島で暮らしているの。周りだけでも、この話には出てこないけど、かなりの人数がいたと思う。島自体が、どれだけ広いか、っていうのは、わからないんだけどね。いろんな人たちが、まあ、みんな、そんなに違わないんだけどね、うん、それぞれ暮らしてて、で、その時にあった、私のいた島の話。

A、なんとなく歩いて、舞台中央へ

B、立ってAを見ている

A もう一回、この島について説明すると、ここはたぶん、周りを海に囲まれた無人島で、今までも、この島に漂流して来て、辿り着いた人間は、いたらいいんだけど。それはたぶん、結構、前のことで、今は多分、この島にいる人たちしか、いないんじゃないかな。島にある食べ物はもちろん限られていて、道具も限られていて、でも水は、湖があって、というか、海もあるし、それで何とかなってる。湖の水はそのまま飲めるし。食べ物も似たような感じで。この島に着いた日の記憶は誰にもなくて、みんな、気づいたら、この島にもちろん、この生き残って流れ着いた人と、ここにたどり着く中で、死んだ人もいるから、生き残った人だけが、島の浜辺に打ち上げられて、そこから、この島に暮らし始めた。それは、覚えてないのは、その日のことを、誰も話さない、のもあるかもしれない。みんな、もともと同じ船にいた人たちだと思っただけど、大きな船だったし、たしか、人数も多かったしで、把握してないんだけど、もしかしたら違う船の人もいるかも。たぶん、同じように打ち上げられて、この島に着いたと思う。そういう海流なのかも。あんまり誰がどこの人間かとか、一時期までは、みんな興味あったけど、今はそうでもなくて。同じくらいの歳の、だいたいみんな、若い人たちがこの島に今、暮らしてる。暮らしてるって考え方は人それぞれで、島を出るために頑張る、って人と、ここで生きていくために頑張る、って人で何となく分かれてて、まあ、話さないから、そういうことも、特に誰も気にしなくて。気にしないのかな？ まあ、みんなそれぞれの場所に、住む場所を作って。島の近くを、船が通らないかとか、嵐が来ないかとか、気にしながら生きてて。最初はルールとかなかったんだけど、島に、みんなが生活する中で、やっぱり、そのうちに、いきなりだけど、まあ、人が死んだり、いろいろ起こるようになって。で、最初に死んだ、亡くなったのは、誰の血縁でもない人だって、まあ、もちろん、島には、死者をどうするのかってルールもないし、その人？ その、亡くなったね、人の、死体を、どうするのか、って、考え方の人は、いろいろいて。で、結局、島の中心に、塔を建てて、鎮めよう。鎮めよう？ こっちも難しいんだけど。そもそも、魂

なんてない、って人もいるから。で、一応、その場所に、集めることになって、島の、その場所は、死んだ人の場所、ってことになって。だから、その塔の場所なんだけど、この島にだいたい、それから一年くらいで、みんな近づかなくなって。で、滅多なことがないと、塔のある、島の真ん中の方かな、までは行かないことになって。あと、死んだ人は、そんなにたくさんいるわけじゃないけど、一応みんなでそこに連れていく、持っていく？ ことになって、だから、一人で、塔に近づくことは、まずないんだけど、だけど、そのことがあるから、その、死んだ人をどうするかがあるから、誰が決めたわけじゃないけど、塔には滅多に近づかないし、島の反対側に用事がある時でも、塔を跨ぐことは、ほとんどないと言うか、塔のあたりは、立ち入り禁止みたいになって、この辺では、誰も近づいてはいけない、ってことになってるけど、たぶんほかのところも、そうだと思う。ほかのところっていうのは、この島だけでも、中で、いろいろ分かれて、人が。で、今、わざわざこうやってみんなに説明してるのも、その塔の周りにだれかいるんじゃないかって、いるっていうか、誰かが、そこに行ったり来たりしてるんじゃないか、って、噂になって。まあ、いけないって、誰が決めたわけでもないんだけど。そうそう、そのこと。で、みんなにそのことで考えてもらいたいんだけど。まあ、誰も、何もわからないまま、なんとなく噂だけ聞いて、みんな。そのまま、三日くらいが過ぎた。

B 聞いている？ ねえ、聞いている？ 誰かが塔のあたりに入ったかもしれないんだって。それを見たって人、探してるんだけど、知らない？ よね。たぶんだけど、それを見たって人は、この辺の人だと思う、たぶん。だから、あ、でもね、二人は、そういう人がいるってことになるよね、塔に近づいた人。ね。それをした人と、見た人。あそこはさ、島の人たちが、ここに住み始めた時に、私たちが、住み始めた時に、その生活に感謝して、そういう、神聖な場所でしょう？ だから、どれだけの人がいて、それこそ、そのことを知らない人もいるかもしれないけど、もう。昔のことだから。だけど、勝手に入っていい場所じゃないと思わない？ 可能性はあるよね、もしかしたら、全部でたらめだって。でも、もし、全部でたらめだったら、みんな、こんなに話したり、噂にならないと思う。虫の知らせとか、そういうのが働てるから、みんな、気になってるんだと思う。そう思わない？ なんだか、この島で今、とても大変なことが起きているのかもしれないって。ねえ、どういう目的があったら、塔の近くに行く？ こんな心配しても、もしかしたら、無駄なのかもしれないけど。

C、椅子を持って歩く

B まあ、それは、私の興味だから、いいんだけど。一回みんなと、この島の、ね、ちゃんと会ってみて、話し合ったほうがいいのかな？ どう思う？ でも、誰かが見た、って噂だけじゃ、話が先に進まないと思うから、実際に行ってみることにしたの。

C、座る

B 行ってみてもらおうことにして、でね、一週間しても、みんな他に話すことがないから、そのことばかり話してたんだけど。みんなは、それぞれの場所に集まって暮らしてる、その、人たちの、代表が、まあ、何人か、集まれるだけ集まって、みんな話合ってみよう、ってことになって。同じ人間なんだから、食べ物も、土地も、そんなに苦勞はしてないし、少なくとも私たちは、うん、この辺りではね。心配することでもないんだと思うけど、一応、みんな顔を合わせてみることにして、二日後が満月で、明る

くて、集まりやすいだろうって話して、その日に、いろいろ、話してみよう、って。で、その日になったんだけど、まだ、塔に向かった人は帰ってきてないの。

A、B、椅子に座る

E、F、出てくる

E 意識してたけどさ、やっぱり、塔のあるあたりは、なかなか森も、危ないし、暗いし、入りづらいし、それぞれの場所に分かれて暮らしてたほうが、食べ物とか、住む場所とか、ちょうどいいし。だから、あの辺りは、もう、ほとんど忘れてたんだけど。他のところで、どんな話になってるのかはわからないけど、一番問題なのはさ、あの場所のことをいろんな考え方してる人はいるけど、どう考えても、そのどれでもない、あの、殺され方だと思う。あ、確かに惨い殺され方してたけどね、そうじゃなくて、凶器、たぶん、ナイフでしょ。だから。だからっていうのはさ、例えば、この島に、ナイフって、どれくらいあると思う？

D、塔の近くで横になる

E もちろん、それを持つてる人間が、全員危ないってわけじゃないんだけど。でもさ、自分じゃない、って言ったら、ほかのやつが犯人、ってことになるでしょ。それって、それはそれで、じゃん。まあ、他の奴が一体どれだけいるのかわからないから、みんな自分じゃないって言い張るんだろうけど。あ、ナイフとかは、そう、最近じゃ縄とかは作れるけど、斧とか、金属とかは、かなり貴重で、さすがに鉄とかは作れないし。鉄とかもそう。だから、どれだけあるかは、結構みんな、興味があるんじゃないかな。ない？

E、周りを見る

E 苦労したことないか。まあ、それが、今、凶器になったって話だから、持つてる人は疑われてるし、持つてない人は怯えてるし、で。でも、ないと生活できないもんね。誰が管理するでもないし。

F じゃあ、いつそのこと、みんなで同じ場所に住んで、同じように管理するようになればいいのに。今のこの島の、限られた人が、限られた道具を扱ってるのって、結局小さくなった、資本主義国家みたいで、なんとなく行われてるみたいで、気持ちが悪いの、みたいな雰囲気です。

F 私たちは、この島に着いたとき、お互いの考えに干渉しないって約束で、それぞれの場所に集まったじゃない？ それがたぶん、生き物としてきつと、理想的な形なんだって、誰かが言ってたと思うの。生き方が近い者同士が、一緒に暮らすの。食べ物とかね。それは、よかったと思うの、それで。だから、でもね、それぞれを本当はよく知らないまま、この島の中で、暮らしてるでしょう。この場所にたどり着いたときに、もう私たちは、違う生き物だったのかもしれないの。無人島に持っていくなら、って質問あるでしょう？ 一つだけ持っていくなら、何を持っていきたいですか、っていうの、無人島にね。でも、それはできないと思うの。もう私たちには。逆にね、無人島に行くなら、もし行けるならね、私たちの、もともと持つていた、考えとか、神様とか、そういうすべてを、捨てていける、その権利だけを、持つて行けたら、それで、うん、よかったんだと思うわ。じゃないと、そこは、きつと無人島にならないもの。私たちは、それができずに、少しずつの、たくさんものを持って、この島にやってきたでしょう？ やつ

てきてしまったの。この島はもう、私たちの目指した無人島には、なれないんじゃないかな。と思って。ううん。この島に着いた時から、わかっていたことだけど、この世界のどこにも、もう無人島はないんじゃないかって。

E、座る

G、歩き回る

H ねえ、最近さ、元気じゃない？ 不謹慎だと思うの。だって、あなたは、たぶん、あのことで、人が殺されたことで、きつと、わくわく、みたいな、してる。わくわくとまではいかないけど。なんていうんだろ。そのことで、ちよつと、元気になってる、でしょ？ なんか、それで、あなたが、つて、疑っちゃつて、そうじゃないのは、わかっても、なんだか、気持ち悪いの。わかる？

G この中に、この島の中に、本当に人が殺された、つてことを、本当にその目で見た、本当の目撃者つて、どれだけいると思う？ それつて、気持ち悪くない？ そういうことを、島の外にいたときに、いろんな出来事の中で、感じていて。でも、これつて、この島にいる誰かの問題で、この島つていうのは、島の人が当事者で、やっぱりもう、遠い国の出来事じゃないから、当事者で。何かを經由した情報の中の悲しい出来事じゃなくてさ、当事者なんだよな、たぶん。むしろ、この不快感が、実際にやつと、当事者として訪れたようで、気持ち悪くはないんだよな。気持ち良いのかも。なんか。確かに不謹慎だけど。でもやつと、登場人物になれたような。そうじゃない？ 今までは、だれが死んでも、関係なかったから。百億人いたとしますよ？ ほんとに。まあ、いるらしいんだけど、見たことないから知らないけど。で、百億人いたら、一万人死んでも、それつて、百億という数にとつて、どれだけのダメージ？ つて、なるじゃん。いや、もちろん、遠くの話でも、悲しいよ、もちろん。でも、それつて、どれだけダイレクトに伝えられるかの違いで、悲しさも変わってくるのが、恐ろしかった。すごく遠い国で、二、三人しか死んでなくても、すごく近くで起こっているように伝えられたら、すごく悲しいし、すごく近い国で、一万人死んでも、すごく遠くで起こっているように伝わってきたら、あんまり悲しくないのね。知性では、傷ましいつていうのか、悲しいのはわかってもさ。それが、本当にそう感じるのか、それとも、誰かにコントロールされてそうなってるのか、よくわからない、わかっている気もち悪さに、気づいたんだよね。で、この島に来て、初めて、この、人が、ね、殺される、つてことが起こつて、まあ、さっきの数字の話だとき、何人いるのかはわからないけど、この島に。解決しようつてことでもないんだけど、でも、明らかに、この島の上に降りかかって来てることで、なんだか、そう、知性とかを間に挟んだような悲しさ、とか、恐怖じゃないの。本当に、怖いし、本当に、悲しい。そういう野性的な感覚つて、忘れちゃいけないんじゃないかな、つて。でも、これにも、やっぱり逆もあつて。その感覚は確かに大事だけど、その感覚を覚えてないといけないくらい、危ない社会の中で生きていくのは、もしかしたら、本当に不幸なこと、いつでも命を心配して生きるのは、結構不幸なことなんだと、こうやって、思い出す程度で、その感覚を、知れるのは、もしかしたら、その程度の危機感で生きていけるのは、それでも生きていける私たちは、幸せなのかもしれないな、つて。

G、座る

H、Gに向かつて

H この島は、小さくなっただけで、外の世界、昔いた世界と変わらないと思う。だって、それぞれのグ

ループがあつて、それぞれのテリトリーがあつて、国境、みたいな、ほんとは、あつて、でしょ。島の大きさはわかんないけど、たぶん小さいけどさ、うん、そんなに大きくないと思うの。そう思わない？ それで、私たちに、いちばん、なんというか、わざわざ作らなくてよかつたものって、なんだつたと思う？ 何だつたと思う？ この、ね、ボーダーラインだつたと思うんだ。違うかな？ あの塔は、この島を、外の世界と、同じにしてるんじゃないかな。

H、座る

A、入れ替わりで出てくる

B だって、そうじゃない？ 国境って言うのは、血で地図に線を引く、ってことだと思ふの。そういう、儀式、みたいなの。でもこれって、まさに、そういうことなのかもしれない、ってことだよ。

C、立つ

B 私がね、最初にこの話を聞いて、思ったのは、たくさんあるんだけど、この島にたどり着いても、私たちは、こういうことをするんだな、ってことと、もしかしたら、これは、小さい戦争、なのかも、ってこと、塔のあたりを奪い合う、戦いなのかも、ってことと、あと、もしかしたら、ただ、そういうことをしたい人が、やっぱり、この島の中にも、いたのかもしれない、ってこと。そういうこと、っていうのは、無意味に、私たちからしたら、無意味に、人を殺して、ああやって、誰かから、誰かへの、宣戦布告なのかもしれないけれど、でも、こっちの考え、誰でもない誰かの、その人にとっては、ただの行為としての、行いなのかもしれない、って、こういう考えが強くて。

A 十日くらいたって、塔の周りに、人が踏み込んだ、って噂は、誰かが、塔の近くで殺されていた、って話になつてた。知らない人じゃ、ないと思う。たぶん。この島にみんなが流れ着いてから、まだ、何年も、本当は、たつてないし。だから、知り合いかもしれないんだけど、あんまり定かじゃない。だって、やっぱりそれも、噂だけだつたから。そんなことよりも、そのことを考える人たちの中で、いろいろ、出てきたのは、だれがやった、とかじゃなくて、どういう意図でそれが行われたとか、塔についてみんなどう考えてるのかとか、そういう問題で。誰も、本当に悲しんでいる人は、いない気がした。そういう人に会つたことが、ないだけかもしれないけど、まだ。まあ、この無人島についた時点で、すべての生き残りは、それぞれ、自分の力で生きていくしかないわけなんだけど。

B、出てくる

B でも、もう、それなりに、時間がたつて、島の人は、たくさん死んだ。でしょ？ で、私たちは、そういうことをまだしてないわけだけど、まだ、人は増えてるらしくて、その、必要性、っていうものは、感じたことが、ないんだけど。もしかしたら、それを感じなくていられるのが、私たちが、満たされてる、って、証なのかもしれないけど、つくってもいいんじゃないかな、って思つて、子供を。この島では、育てるだけのいろいろなものがない、って、それもわかるけど、それなりに、戦争とか、飢餓とか、私たちの目線では、ない、ちゃんとした、これも、私たちの目線でね、安全な場所に住んでるでしょう？ でも、私たちは、どうして、子どもがほしいと思わないのかしら。それが必要だと、思わないのはどうして

かしら。私たちは、ある所から、その必要がないと感じて、性別も関係なく、愛し合う権利を得たの。でも、それは、生きる、ということに、無関心になった結果のような気もするの。でも、それを考えなくてもいいのは、あるところで幸せなのかもしれないね。

H、立つ

H 私たちは、たぶん、こうやって共存することは、もうできないんじゃないかな、って思ってた。そうやって考えて、こうやってここまで来たんだけど、やっぱり、いろんな考え方が、を、知ってる人が、もう、いろんな考えで、一緒にいることは、受け入れるのは、不可能だと思う。もしも、人を食べる人と、一緒にこの島で暮らさなきゃ、って、考えたことある？ こんな問題提起、人を食べる人には、無駄なんだけどね、その人たちを、きつと受け入れられないと思う。頑張っても。お互い、一緒に住むことができない人たちは、絶対いると思う。そういうのは、極端な考え方だけどね。でも、それだけじゃなくて。その小さいのが、この島で、今起きてるんじゃないかな、って。小さい、っていうのは、例えば、魚が食べられないとか、そういう小さなこと。魚しか食べないとかね。そんな二人が出会ったとして、一緒に暮らせないでしょう？ でね、今までは、そういう人たちは、別々のところで暮らせばいい、って、私たちは、そう考えてたでしょう？ そう、考えてたの。でも、この島には、いつの間にか、百億もの人がいるって、言われるようになって、もう、別の場所に離れるほど、世界は広く、人の住めるところが、残ってるわけじゃないんじゃないか、って、心配になったの。でも、私たちは、きつと、恵まれてると、思う。だって、まだ、この島に誰がいるかって、わかって、想像も、なんとなくでも、できるから。

D、立ち上がったって座る

E、立つ

E 塔の、近くに、行ったことのある人、というかそもそも、行きたいと思ってる人って、どれだけいるんだろう。あんまり、いないと思うんだけど、あんまりいない分、そう思ってる、少ない人、つまり、行ってみたくか、考えてる、少数派の人は、それなりに、強い思いで、そう思ってると思うんだよね。少数派って、消えるように消えないのは、少ない分、多く、強く、そのことを思って、一定数、いるからだと思うんだよね。だって、塔について、信じてる人も、いろんなことをね、神様とか、信じてる人も、あと、信じてない人も、信じてる人が入るな、って、強く思ってるのは知ってるから、近づかないし。幸いなのは、私たちの島はまだ、あの場所に近づかないといけないほど、人であふれてないことなだけ。それでもできないくらい人が増えたら、それか、それを、塔のことを全く分らない人とか、そういう感情を、信仰とか、持っていない人たちが、まだないんだけど、違う島から来たら、どうなるんだろう。例えば、死ななくなったら？ 死ぬってことがなくなったらさ、死者を悼む人とか、いなくなるのかな。そう思ったら、やっぱりこの目で一回、その場所を見ておきたいと、思わない？

A、B、E、H、椅子に

F このタイミングでわざわざここに来るってことは、そういうことだと思っただけど、もし、本当にそういう人なら、すぐにわかると思う。大丈夫って気がする、なんとなく。そういう直感で、人を選んで、いつも、暮らしていけたら、って思ってたんだけど、この島でも、もう、それは、難しいみたいで。だから



ら、話すんだけど、ここで起こったこと、知ってる？ ほかのところでも、どう話されてるのかは、そことはわからないけど、こつちでは、でも、きつともう、同じ風に伝わってると思うから、それで、ここに来たんだから、私たちと、あるところで同じように、わからないことがある、つてことだけは確かなのね。あなたたちにも。

C こわい。ね。だって、この島ではさ、まあ、外の世界でも、そうなのかもしれないけどね。ここに、線とか、ないわけじゃん？ でも、ちよつと怖いでしょ？ そういうことを考えて、それを、感じるまでには、かなりの時間、そう思わないといけないのかもしれない、とか、考えて。あ、この無人島でも、それなりに、始まつたのかも、生活というか、が。ここに線があるのかも、つて、その、想像された線が、人に与える恐怖感、いつから始まつたんだろう？ 国境つていうのはさ、人が、血で、引く、境界線だと思つて。ここで、血を流しただけかいて、ここは、何かの境界線なんじゃないかな、つて。そういう感覚あるでしょう？ もう。この島には、そんなものは、なかったはずなのにさ。でも、子供たちの世代は、あればだけど、変わるのかもね。新しい価値観で暮らせる世界。そういうことを、教えなければさ。ここに引かれた線が、私たちを分けていくわけだけど、それによつて、与えられる恐怖感を、断ち切りたい、つてというのが、この島の人たちの願ひなんじゃないかな。

A、体で音を刻む

C みみたぶ。ピアスとか、ちぎれたときさ、みみたぶ、こう、なるじゃん。でもさ、こう、なつてもさ、くつつくじゃん、見たことない？ こんな感じ、ゆつくりだけどね、もちろん。でき、みみたぶ、つて、もしかしたら、他人とでもそうなのかな、とか、くつつくの、似てるんじゃないかな、つて。

E、体で音を刻む

C で、傷というか、それもあるけど、デリケートな部分つて、もしかしたら逆に、くつつきやすいのかも、つて思つて。男と女もそうじゃん。一番デリケートな部分がくつつくの。でも、肌とかは、どれだけ愛し合つて、くつつけようとしてもさ、ダメじゃん。経験ある？ そういうの。デリケートな部分こそ、くつつく可能性がある、これさ、結構な可能性、発見だと思ふんだよね。

B、体で音を刻む

G、体で音を刻む

それぞれの音律は、全く関係がないかもしれない

C でも、そういうところ、つて、傷つきやすかつたり、痛いんでしょう、やつぱり。だから、この状況は、結構、どの目線から見ても、この島にしても、世界的にも、普遍的？ なのかも、つて。このことがあるから、初めて、この場所についての、いろいろなことが、この島の中で、一つになるのかもしれないじゃん？ だから、面白いな、つて考えて。思つて。不透明。

D、登場、体で音を刻む

H、どちらでもよい

C 不透明な、無人島のルールは、どうしたらいいんだろう、とか。この場所のことを、すごく、死者を祭る神聖な場所だって、考える人がいて、知り合いに。わからないわけじゃないけど、でも、その、すぐ隣には、あ、この人と、さっきの人は、知り合いじゃないんだけど、この人は、ここで暮らしていくからには、この場所でも、有効活用したほうがいい、って考えて。まあ、島にも、無限に土地があるわけじゃないから、その通りだけ。で、そのどっちも、正しいと思うんだけど、ある日ね、ここに入ったのが、見つかった人がいて。で、そのことを、さっきの二人も含めて、どうするかって、話になったんだけど。まあ、なんとなく、ここには入ってはいけない、っていうのは、みんな考えてたし。で、最初の、この場所を大事にする人は、もちろん、ここに来た人を許さなかったし、で、なんか、その二人目の人も、普段は、そんなこと言わないのね、ここに踏み入った人を、悪く言って。あれあれ、みたいな。でも、共同体で暮らしていくには、そういうことって、決められてなくてもあると思うし、それでも、いいんだと思うけどさ。すごく、その、決まり事が、恐ろしくなって。

F ねえ、ここで、私たちがこうして話してるのって、この島にとって、どのくらい、危険なことなのか。それか、どれくらい、都合の悪いことなのか。考えたことある？ さっき位から、そういうことを考えるのは、たぶん、まだ、私たちが、それぞれの場所に帰るかもしれないけど、その時の可能性を、考えて、だから、だと、思う。でも、もしかしたら、そんなこともう、考えなくてもいいのかな、とか、考えちゃう。だって、このままあなたと、南へ行ってもいいかな、って考えてるの。いけないことかな？ でも、行けなかったとしても、元の場所に戻るつもりは、あんまりないかな。それは、ここに来るときに、そう思っていたからかもしれないのと、考えてたいろんなことが、ここで、言葉になって、形になったから、今までの、考え方に、退屈しちゃう自分がいると思うから。ねえ、ねえ、今、初めて、この島の言葉の中で、本当に、他人が必要な、言葉が使われると思う。ねえ、南へ、行こうと思うの。そうでなければ、今までいた場所じゃない場所に。自分を見つけた気がするの。いま、やっと。だって、この島に来たとき、実際には、この島にはたまたま、偶然、来たんだけど、でも、その前の段階でだって、それで、その時だって、あんまり、そういうことは、感じてはいなかったから。

音律、止まる

G、立つ

C たぶん、この話の中で、初めて、自分という言葉が使われると思う。君に対して、僕が同意することで、私という言葉が成立するんだと思う。

全体、転換

F、座る

C、続いて椅子に

A じゃあ、なんで、こんなことに、なったんだと思う？ 確かに、帰れるって、故郷に、思って、ここまで来た人は、それで、ここにいる人は、きつくないと思う。これも、一つの、運命、的な何か、なのかもしれない。みんなここにいると思う。でも、一応、訊いておくと、そういう人は、いますか？ そういう人、っていうのは、ここに、本当は、いなかったかもしれない。もしもあの時に、って考えた

きに、その決意、しなかつたかもしれない人、まあ、その可能性を、考えていったら、すべての人に、あるわけで、可能性そういうこと考えずに、今を生きていければいいんだけど、それって、かなり恵まれたほうじゃないかな。少なくとも、ここにいる人たちは、考えられる、その、余裕とか、時間とか、頭、少なくとも、ある人たちで、私たちは、だよね。で、考える、その、能力とか、ある時点で、ある程度もう、幸せなのかな、と、思ってた。だって、たまたま、こうして、たどり着いた場所は、それができて、できない人も、世界にはいる、いる、って言う話で、見たことは、ないんだけどね。努力とか、ある程度才能のかな、とか、努力する、時間とか、権利がない人もいるんでしょう。どこかに。だからすべての人に、ここまでたどり着く、可能性があったかというのと、そう、ではない。だから、話、戻るけど、世界の可能性的には、どうなりえた自分もいるのかもしれない、ってのと、すべての人に、ここにたどり着く可能性があったわけではない、っていうのが、一緒にあるんだよね。だから、私たちに、もう一度、訊いておかないと、と、思ってた。

G、出てくる

A この、どのくらいの確率で、ここにいる自分と、ここにいられない自分が、世界に存在したかもしれないか。そして、それを考えられる私たちはそれに勝ち抜いた、戦いではないけど、まあ、そういうことだよ。誰とも戦ってないけどさ。もし、この生存競争、っていうのが、本当に戦いなら、誰が、何を守るための闘いなんだと思う？

G 昔、もね、住んでたところで、アパートだったんだけど、小さい。そこで、なんでいるのか、って聞かれても、別に、必然に迫られて、っていうのが、多分その時の答えで。そのときは、そこに自分が、まあ、そこにいなきゃいけなかった、し、仕事とか。そこに居ざるを得なかったから、って言うのがあって。普通の家庭の、専業主婦、あ、この言葉の響き、懐かしい、その、専業主婦に、なんで、家にいるんですか、って、訊いたとして、存在意義的な、哲学的な、答え、帰ってこないと思うでしょう。自分はそうするべきだと思ってるから、っていうと思う。逆に、專業じゃない主婦でも、働いてる人ね。その人も、同じだと思う。そうするのがその人には自然だから。で、犯罪者とか、まあ、これは極論だけど、そう、で、なんでそこにいるのか、って、牢屋の中ね、訊いたら、やっぱり同じで、まあ、それ以前に、なんで、犯罪者になっちゃったかって話なんだけど、でも、そこにいる理由、という意味では、今の二つは極端だけど、同じような答えになると思う。大体は、他も一緒なんじゃないかな。それが遠いようで近いのが、きつと、この島の、私たちが。特に、ファンタジーな感じの意味は、求めてなかったと思う。これが私たちに自然だったから。語るとしても、ミクロは、ほぼ無限にミクロになって、さっき言った二つの、犯罪者と専業主婦、は、マクロなことだけど、ミクロは、きつと、すごい無意味なこと、の、繰り返しで、それが積み重なって、ミクロっていうのは、私たちの中の、個のことね。で、一つの無人島、って、答えになったんじゃないかな。たつた一つの、出来事というか、きつかけで、一気に変わっちゃうなんて、ないと思うんだよね。いくつものことが、重なって、一つの事件に結び付くと思ってる。それが、ミクロをいちいち見てたら、たぶん、無理で。無限だから。例えばだけど、お金、って、何だろう、って話から始まって、疑問が。概念、って言葉が、しっくりくるかも。価値感、って、目に見えないし、計れないから、その代替物として生まれて、それが、労働の対価として、払われるようになって。って、ざっくりだけど、ここまでするのね。でも、価値だと思ってるのって、しんどいところもあるじゃん？ 例えばだけど、慰謝料、的な。この価値の怪我なのかな、とか。納得できないじゃん。で、次に、価値の代替物の次にね、今

の世の中を渡っていくツール、一つの効率的な道具なんじゃないかな、って。でも、道具なのに、結構なウエイトを、生活の、占めてるところがあつて。あつたの。とか、考えながら、ATM、あるじゃん、あれに、お金、振り込もうとしてたら、ATM、って、羽振りのいい、というか、金づるになる、男を指して、使ったりするじゃん。手続きしたら、お金出てくる、男、まあ、手続きって、わざわざ言うなら、ほとんどセックスとかのことになるのかな。で、ATM男、って、言葉を考えながら、さっきの、お金、概念とか、ツールとか、考えてたら、ATMが、時間切れ？ か、なんかで、言ったの、ATMが。「もう一度入れてください」って。なんかこれ、ATM男と同じように、ATM女も、あり得るんじゃないかなあ、って、思つて、お金を、出したり入れたりする機械なのに、ね、出したり入れたりするそれって、まあ、そういう意味の。で、お金の出し入れも、その出し入れも、世界では、同じ数存在するのかも、とか思つて。子供手当とかも、そうなのかも、とか、そういうのが、あつたのね、子供手当っていう、お金もらえるの、子供いたら。出し入れしたから、出し入れできちゃって。で、最初に戻るけど、ツールとか、概念とか。人間の知性的な発明だと思つてたというか、思おうとしてたんじゃないかな、って。それが突然、すごく原始的な、野蛮な気がして。誤魔化されてんのかな、って。まあ、違うんだけどね。どっちともかけ離れたいなあ、って。そう思うのにも、もちろん、お金のために、いろんな苦労を見てきた部分があつたから。結局は、そういうのが積み重なって、思考回路とかじゃなくて、積み重なり方の問題で、結局、ここにいる、私たちになり得たんだと思う。確率とか、可能性とか、出来事とか、すべて、等しく、降り注いで、世界に、すべてのことが。で、その、どれが、どんな順番で、積もつていくかってその順序で、どこに私たちがたどり着くのか、決まるんじゃないかな。そういうところから逃げ出したいとか、思う人もいるんだけど、それができる人も限られて、たまたま、ここにこの無人島があつた。私たちがここにいるのは、あるところでは、無関係に必然だったんじゃないかな。

D たぶん、噂とか、秘密は、みんな、この人なら、話すとか、話さないとか、ある程度計算して、話してると思つて、ひみつー、とか言いながら。それが、この島にも作用してるから、あ、それは、社会に起る、噂ね、社会にだけ起る、ある条件の中での、噂。言葉が通じるとか、そんな、行為だと思つて、それが、この島にも作用してるのは、この島も、知らないうちに、社会に、なってるのかなって。それが気づかないうちに共有できるのが、私たちなんだと思う。でもね、気づかない、っていうのも、すでに間違つて、私たち、って言葉を、私たち、よく使うでしょう？ その、私たち、って言葉、我々かもしれないけれど、その言葉が、私たちには、成り立つでしょう？ ね？ だから、その時点で、私たち、って、社会なんだと思つたの。で、噂の話に戻るんだけど、それが、でも、本当は、言いたいのは、噂の話じゃなくて、それを、どうしたのかってことで。難しいんだけど。私たち、って言葉が、無意識に引いてる線引きって、あると思うでしょう？ それが、どこまで働くのかな、って。もしかしたら、線の向こう側には、もう働かないのかもしれないけど、でも、線の向こう側、っていうのは、目で見て、見なきゃ、わからないこと。でも、それを見て、意識したときに、私たちの中に、新しい、意味が、与えられちゃうと思う。それは、その言葉をいう人の無意識だけど、たぶん。矛盾してるけど。でも、その、線引きが、秘密を共有できるかどうか、ってことで。でも、もっと難しいのは、そこに、個人的に、好きかどうか、加わってきて、その時に、例外的に含まれる、私たちの中の、一人を、考えを足したときに起る、摩擦、ズレは、どうなるのかな。言いたいのはね、私たちの意味が、それぞれ違う、この島だけじゃなくて、一人一人に、違うその中で、でも、噂とか、隠し事は、私たちの中で起るものだから、そのことを、そのことが、起こすことって、人ひとりに受け止められることだと思つて？

H じゃあ、私たちは、このことを、今まではなしたみたいと考えてる、ってことで、いい？ そうね。私たちは、きつと、これをこうやって話し合うだけの時間が与えられている時点で、幸せなのかもしれないわ。でも、その、幸せっていうものの考え方も、今までと、この島とで、変わったのかしら。私たちがここにすることが、ここにこうしていられることが、幸せだとしてね。この島の、この世界の外側と、島の外側と切り離されて、こういうことを考えてる、っていうだけの、私たちが、幸せだと、ほんとに思ってる？ この島の中で起こった、不思議な、この一連の事件に、ちよつと離れて噛み締めるこれを、日常っていうのかしら。この、無関係さを守る安全な生活を、幸せだっってほんとうにみんな思ってる？ きつと、思っていないと思うの。だって、ここにみんな、幸せそうな顔をしてないもの。

D、座る

F、立つ

C、その隣に

F 今日、みんなに話したいの。まだ誰も、そういうことになってなくて、不思議だったから。子供、とか、ほしくないのかなって。子供をつくる、と、するでしょう。それは、まずは、祝福されることだと思いの。でも、育てられるのか、っていうのは、別の話でね、それができなかったら、愛し合っていて子供をつくったとしてね、できなかったら、本当には、愛していなかったことになるんでしょ。わからないじゃないの。無責任、ってことでしょう。でも、その、実現できるか、っていうのが、後でできなかったとして、過去に愛し合ってたことが、幼い、そういう感情に見なされるのは、すごく、愛、という言葉が一番近いものは、計画性、なんじゃないかと思う。反対みたいな言葉だけど。だって、心と、頭の問題でしょう。て、ここまで考えてね、そのこと自体が、ある一定の条件、つまり、私たちが、いた、国の、中だけでの、条件なんじゃないかって。だから、その社会の中では、ほかに人から見、愛し合っていないことになるだけで、その人たちの間では、どうなんだろう、って。ほかの人は、それを、その社会の価値観で、愛し合っていないと、みなしてもね、本当じゃないって、言ってもね、本当の愛というものがあるとして、それはやっぱり、本人たちで決まることなんじゃないかって。当たり前のことだけだね。やっぱり、本当の、って言うの、あるとしてね、宗教とか、社会とか、そういうものに、影響されるものなのかな。でも、そういうものが、私たちの価値観、つまり、愛、も、結局は、それで、構成されるなら、ね、じゃあ、やっぱり、さっき言った、本当の愛はそういうものを挟まない、っていうのね、それに、社会的な、子供とか、そういう疑問を抱く時点で、もう、純粹じゃないから、本当じゃないのかな。でも、それが、私たちが、愛するということに下した決断よね。私たちは純粹さをなくさないと思えないの。

B、前に出る

F、ミュージックプレイヤーを取り出し

音楽を聴き始め、横になる

B その、考え方のなかだけで言うと、誰も、もしかしたら、誰も愛してなかったのかもしれないの。つまり、子供をつくるか、ってことが。それだけ、責任を負えるか、ってう、意思表示が、誰にたいしてとかじゃなくて、ともかく、その意思表示が、重さが、あるところで、愛情というものの重さになるんだと思わない？ でもね、考えてみると、それも、ある、条件の中だけでの考え方なの、だって異性を好きにな

ることは、また違った考え方からすれば、子供はできないわけだし、だから、そんなに重要なことではないかもしれないけど、その人たちは、違うところで、誰かに対して、責任を負うことになっているの、重たい。でも、それがあるだけ、その人たちは、強く思っているんだな、って、思うでしょう？ だけど、そのうちに、誰もその人たちを責めなくなるの。重さがなくなるのね。そしたら、その人たちは愛し合えるかしら。何かに重たい責任を果たしている、何に対してなのか、誰に対してなのかは、わからないけど、その人自身じゃないことだけは確かなの。責任を果たしている状態があつて、その重さに応じて、愛と認める私たちは、誰にも何も課されなくなった時に、どこにたどり着くと思う？ 少なくとも、それはもう、私たちの間に起こる事柄じゃなくて、他人に対して追う、責任みたいなものじゃないかなって。だから、重力は、等しくみんなに重さを与えるでしょう。重力がいちばん、私たちが愛してくれているのかもしれないわ。

E、音楽を聴き始める

D、登場

C、塔の周りを回る

B、音楽を聴き始めながら座る

D、Cの傍に

D 考えたんだけどね、こういう、ことを、長く考えたり、誰かに話したりするのは、すごく、陳腐なこと、未成熟なことなのかもしれないけれど、この感情は、ある一定の条件の中、ルールとか、社会とか、生活の中だけで働くものかもしれないじゃない？ でも、そのルールが変わっていくように、同じように、私たちだって、変わって行くはずなんだけどね。だったら、ね、これを、愛してる、って言える社会に変わるのが、一番なんじゃないかと思うの。

D、ナイフを持った手でCを後ろから抱きしめる

D もしも、て、言葉は、もしもでしかないけどね、どこまで行っても。いろんな、小さな積み重なりが、運命的にこのことを招いたとして、その先で、私たちが、共存できる、そんな幸福を、願ってるの。

C、倒れる

D、座る

F、音楽を聴いたまま

F 聞いた？ 聞こえる？ 塔の近くで、男の人が、死んでたんだって。みんな、知ってるのね、それ、知り合いだったんだって？ あれ？ でも、それは、私たちの誰でもない、男の人だったんでしょう？

F、起き上がる

F どう思う？ 幸せな人たちは、大体こう言うの。『今になって思えば、あれでよかったのかなあ、って、今になって、やっと受け止められました』って。それだけ、強くなった自分に、幸福感を抱く、その人がいるんだと思うの、それは。でも、大体のことが、そうやってまとめることができ、未来の話ね、

これは。いつか、そう思う、未来がくる話。きつとみんなそうなる。で、その繰り返しの中で、聞きたいのは、本当に、受け入れられないこと、って、何なのかな？ っ。その質問の答えが、その人そのもの、な気がするの。そう思わない？ だって、そのせいで、人は、人を殺すでしょう、たくさん。だから、そうやって、殺す、っていう、その人が、持つてるものの中で、一番信仰的な、一番の、境界線を世界に発信する。これ、その人が生きていた、ってことだと思うよ。でも、もちろん、それは、いけないことだと思。強く思う。だから、ね、怖いと思つたことがない、戦争とか、私たちはきつと、当事者じゃないから、きつと戦うこともないから、よくわかるから、その気持ち、わかってやってるよね、私たちは。傍観できてる。で、無機質に判決を下せちゃう。じゃあ、怖いものって何？ っ。それ以外のものをね、考えてると、人殺しより、人殺しに殺された人のほうが、恐ろしいと思う、あるところ。

C、起き上がる

F そう思わない？

F、もう一度、倒れる

G、音楽を聴き始める

E、イヤフォンを外し、出てくる

E 知り合いが、隣にいて、そいつが、白い、ここは、すごく無機質な建物で、白い、部屋の中に入って  
いって。

C、声を出す

E それで、しばらくして、部屋の中から、叫び声が聞えたんですよ。で、また少しして、そいつが、部屋から、這いずって、出て行ったんですよ。

C、這って椅子へ

E なんだか、とても、恐ろしいものを見て、されて？ された夢を見て。で、何かを、失ったような顔で。幽霊みたいな人を、初めて見て。そいつの次に、また、一人、いて、そういうやつが。で、その部屋の前に、立つことになって、入るのが、すごく怖くなって。たぶん、服装も真っ白だったし、つなぎみたいな、囚人服だったと思う、だから、焼き印を入れるんだと思う。その時の恐怖心は、こうして話しておきたくて。そういう、まあ、夢を見たんだけど。怖いって、どこから来るんでしょうね。

E、再び音楽を聴き始める

B、E、F、H、椅子に座る

A 今、ここで、まあ、実際に見た人は、いないんだけど、ここには、死体とか。まあ、いま、ここにいる人たちの中で、そのことについてよく話しておこうと思って。みんな、集まろう、って話になったんだけど。それは、前の、その前の満月だったかな、その日から、たぶん、二か月くらいが過ぎていて、

この島はたぶん、結構南のほうで、季節とかないんだけど、たぶん、そのくらい、たつてたと思う。で、もう、やつぱり、誰も、塔には近づかなくなつた。もとから、それは、タワー的なものだったけど、今になって思えば、タワー視されてただけで、塔の近くに行くのはね、でも、実際は、タワーではなかった。だって、ほんとは、誰にも知られずに、向こう側に行つてたり、した人、たくさんいたらしいし。で、今になって、本当にタワーになって、今度は、そのことについて話すことが、タワー視されるようになってきた。これも、そう見ている、私たちがね、って、話であつて、タワーではないのね。どうして、こんなに、私たちが今、こういうことに敏感になつてゐるかっていうと、だって、夢？ なくない？ この島に、ある？ 何も、ないんじゃない？ その向こう側くらいにしか、なくない？

A、音楽を聴き始める

G 聞こえる？ 聞こえる？ 聞こえる？ この、言葉、意味は、分かる？ ちよつと、最近、わからないけど、耳の調子が、よくなって。声、聞こえてる？ 聞こえてることを信じて、話すけど、いい？ じゃあ、そうする。話すけど、二つのことがあつて、無関係じゃない話なんだけど、それが、この島に、同時に起こつたことなんだけど、地震、があつて、島に。それで、崩れた家は、この島には、なかつたのね。結構大きい地震だつたのに。まあ、どんな家がそもそももあるかとか、どれくらいの家があるかとかは、大事なことじゃないから、置いとくとして、そのあとにね、起こつた、二つの出来事なんだけど、地震の後にも、余震、つていうのが来るのね、余波、というか、名残り、みたいな、大きな地震の時は。それが、続いた時があつただけで、大きな地震の時は、どの家も、倒れなかつたのに、その、余震、小さいのが続いてるうちに、倒れる家があつて、一つ。それを見て、思い出したんだけど、これも、昔ね、何もなかつたのに、突然倒れた建物があつて。あ、もしかしたら、あれつて、揺れてたのかな、とかね、考えて。

E、立つ

E この二つのことは、何の関係もなく、人によつては、地震とかも、わからない人も、いると思うから、わざわざ話すのは、そういう教訓じゃなくて、そうやって、もの、つて、壊れるんじゃないかな、つて言う。まあ、教訓でもなんでもなくて、ほんとに。そういうことを、この、聞こえてるのか、聞こえてないのかわからない状態の、不透明な話の中で、思った、つて話。

D、立つ

G、椅子に座る

E、歩き回る

D でもね、それは、もしかしたら、関係のないことなのかもしれないでしょう？ 全部。だって、誰の子供か、とか、考えずに、平等に愛せる、子供たちを平等に、その子供たちの幸せを願う世界を、私たちは、願つていてしょう？ ね。で、その可能性を手に入れている、つて考えれば、いいじゃない。ね？ もちろん、感情としては受け入れられない、ことがあるのは、わかつてゐるわ。そういいながら、矛盾を感じている、つていうのが、正しい、今の気持ちなのかもしれないけど、でも、それで、殺してしまうのは、違ふと思わない？ 誰の子供であつても、今は、この島に、そういう、義務、とか、ないはずでしょう？ 幸いにも、肌の色は、同じだし、きつと、髪の色も、目の色も。だから、何年もしているうちに、本当の



家族になれる日も来るかもしれないでしょう。この島で。そうやって長い、時間を過ごしているうちに、いつか、受け入れられる日が来ると思うわ、この不条理のような出来事も。変わっていくものでしょう。そうやって変わっていく先で、あの時あれでよかったんだ、と、思えるようになって、強くなったその人がいるときに、その人の中に、その現実を受け入れられるだけの、ああ、これでよかったんだな、っていう、それが、幸せ、ってものだと思うの、それが、訪れると思う。でもそれって、未来の話で、幸せ、現状で、よかったって、思える幸せって、いつでも、未来のことで、今、っていうのは、いつでも、今みたいに、苦しいことなのかもしれない。

A、B、D、E、G、H、塔の周りを回る

F こんなことで、人の死を受け入れるなんて、無理でしょう？

死の儀式、終わる

B 昔読んだ、小説の中に、その土地で、人が死んだら、私たちはもう、その土地の人間だ、って、いう言葉があつて、何てタイトルだったのかは覚えてなくて、それに、どんな話だったのかも、覚えてなくて、でも、それって、生まれていることが、前提の話じゃないかなって。思ったの。それを言った人には、確か、子供がいたから。だから、この島に、初めて、子供が生まれて、そのとき、私たちは、本当にこの島の住民になるのかな、って。だから、だから、本当のことは、言えないけれど、この子は、きっと、この無人島の子供として、生まれるの。それで、この島は、無人島じゃ、なくなる、私たちの、島になるんだと思うの。

A、音楽を聴くのをやめてBに触れる

B、倒れる

H この島のことは、大体、わかってもらえたと思うんだけど、今までで、初めて、の、ことがあつたの。それは、目の前で起きたの。知り合いが、知り合いを、目の前で、殴り殺しちゃって。でも、それを、罰する法律もないから、この島には。そういう時に、どうしたらいいのかわからなくて、みんな。誰かが、誰かを殺して、その人を罰するときに、法律、じゃなくて、私たち自身の、もつと小さい枠組みでの判断で、その人を裁くことになったの。で、例えばだけど、その人が、死刑になるとしてね、誰がやるんだろう、それよりも、今までは、だれがやっていたんだろう。って。法律で、さばいたとしても、結局は、手を下す人が、いないといけなかったと思うから。それは、時代によって、場所によって、いろんなシステムが起すことでも、最後に人がいるのは、絶対で、って考えてると、すごく悲しいことだけど、人が、本当に、必要とされるのは、もしかしたら、そういうシステムが下した判決を、最終的に、処理するとき、わかりにくいかな。つまりね、何かを決定する、っていうのは、システム、例えばだけど、ルールでできるの。でも、その、ルールが下した決定を実行するのは、人じゃなきゃいけない。もつとわかりやすく言うと、人が人を裁くのに、必要な人間は、ふたりなの。裁かれる人間と、手を下す人間。つまり、悪いことをした人と、その人を罰する人。これが、言葉には、しづらいんだけど、今も、すごく悲しいな、って、思っ。ルールは、人を、すぐく、不必要にするんじゃないかな、って。でも、実際に、その当事者を見たときに、やっぱり、ルールにさばいてもらいたって、思ったの。それを決定する、っていう、その責

任とか、過去を背負って生きていくには、私たちにはできないから。

H、座る

A その事件の、最後は、結局、その、みんなの前で、女を殺した、その男が、洞窟に閉じ込められて、一か月放置される、っていう話だった。結局誰も、その男に手を下す勇気のある人間はいなかった。私たちは、そういう人種だから。で、洞窟に閉じ込められた男なんだけど、もちろん見張りもついてて、出られることはなくて、そもそも、たぶん、その男には、逃げようって、意思もなかったと思う。洞窟の入り口は、大きな木とかで、完全に固めてて、食べ物も与えられないで、まあ、そうやって、餓死するのを待ってたんだけど、一か月くらいで、死ぬんじゃないか、ってみんな考えてたの。でも、一か月して、その洞窟をみんなで確認したときに、そこには誰の死体もなくて。骨もなくて、みんな、生き物が、肉食の、が、そいつを食ったんじゃないかって考えたんだけど、骨もないから。で、その洞窟には、もう一回、木で柵をして、誰も近づくな、ってことになった。この島で、最初にできた、ルールだった。で、みんな、また、あれをしたんだけど、まあ、最近になって、たくさん人が死んで、その両方のことをよく知ってるって人に訊きたくて、ね、恋人と、友達を、一緒に亡くした時、その二人共の死を、同じように悲しんだり、できると思う？ って。

A、座る

C、人の頭くらいの大きさのボールを持ってくる

D、立つ

D いろんなルールができていく中で、この島も、一つの共同体になっていく中で、ランダムなこと、この島の外側があるんだって、思い知らされる事件があつて。

B、起こされて、遊びの仲間に入る

全員、音楽を聴くのをやめながらボールで遊び始める

D 瓶が海から流れ着いてきたの。よく、お話に聞くような、手紙が入った。開けてみたけど、違う言葉で書かれていて、でも、思ったんだけどね、たぶん、「たすけて」って、書いてあつたんじゃないかな、って思ったの。場所と、日付と一緒に書かれてあつて、そんな感じがしたの。でも、その日付の意味さえ、私たちにはもう、意味をなさないものになってたわ。それよりも、助けを求めた人と、私たちの境遇、って、どれだけ似ているのかな、って思ったの。助けられないんだけどね。それと、私たちは、その瓶のような手段を、持っていないから、私たちも、助けを求めるとすれば、助けを求められた今になって、ようやく、助けを求める、ということに気付いたの。もうひとつ、思ったの。たぶん、この手紙を海に流した人は、助けなんて来るとは、思ってないでしょうね。そんなもの、この島のどこにもないもの。

D、座る

G、輪から外れて

G 昔、何かの、何だったかな、で、見たんだけど。神様、つてもものがあるなら、こんな形なんじゃない

かつて。どこから見ても、平等だし、確率的にも、どの角度から起こる偶然にも、同じ確率で、常に動くわけだし。この形。平等とか、完全とか、そういう意味で。で、地球も丸いなあ、って。もしかしたら、地球なんてものを見たことがないけど、それは、神様なんじゃないかな、って。だから、宇宙飛行士には、なれなくて、まあ、なれないんだけど、なれなくてよかったと思った。その正体を、知りたくはなかったし、わからないほうが、生きていけるんじゃないかな、って、そういうこととかは。そういうことっていうのは、地球が、もし神様なら、神様がいるのに、人はおろかで、地球が神様じゃないとして、その時は、また、神様って何だろう、って、考えて。まあ、地球、って、球体が、一番、神様に近いんじゃないかな、って、思っ、いることにしてる、とにかく。でも、もし、人が、神様に一番近づくとしたら、どうなったらいと思っ？

G、ボールを持って退場

E 今から話すんだけど、この話の、最後に、よく聞いて、覚えたいのは、旅、って、言葉を使うから。寓話とか、そういうものになるかもしれないんだけどね、まあ、そういうのは、大概つまらないと思うから、ただの話として、聞いてほしくて。話の最後の、旅、って言葉は、戦争、って言葉の隠語になってるから。それを思っ、たのが、その日はね、満月じゃなかったんだけど、月がすごく大きくて、きれいで、雲も濃かったんだけど、でも、その曇り具合で、月の光が、縦に伸びて、こう、で、月の、柱、だな、って。月の柱。今も昔も、月は、きれいだっただけで、歴史的に見れば、戦争は、ずっと続いて、こんな、月がきれいなものになあ、って、関係ないけど、思っ、て。ずっと昔から、こんな景色の場所に住みたいな、って思っ、てたから、来れてよかったなあ、って、だっ、て。こんな場所だったら、きつとみんな、争わないと、勝手に思っ、て。違っ、うかな？ まあ、もつと、いい場所もあるのかもしれないけど、あるならさ、知りたくはないな、と、まあ、もう、知る手段も、私達には、なくて、それで、よかったんじゃないかなあ、と。だっ、て、もしも、それを知っ、てしまったら、私達には、また、そこを目指して、旅を始めるから。

E、座る

F 昔、みんなに話したでしょう？ 姥捨山、って話。いらなくなった、人間、私たちの共同体がそう判断した人間を、ある場所に、捨てる国の話。昔話、っていうの、そういうお話を。その、姥捨山みたいなことが、いま、この島に起こっていると思う。つまり、いらなくなった人間を、その、塔の周りに捨てる行っ、て。このことを、言い出すのに、ずいぶん時間がかかったんだけど、ずっと前から感じていたの、本当は。で、みんな、昔話した、あの話、心に留まっ、てなかったのかな、って。思い出して、って思っ、てたの。でも、そんな、話、話に思っ、いの、思っ、いの重さ？ なんて言っ、たらいいのかわからないけど、言葉遊びじゃなくて、話してる思っ、いの、強さ、は、人には、伝わらないものなのかな、って。そしてね、私は、世界に対して、強く言っ、ていることでも、世界は、それを大切に受け止めてなくて、世界にとっ、ては、それを聞く人たちにとっ、ては、多くの他人の中の、ひとつ、の、出来事で、それぞれのエピソードは、同じだけの価値しかないんじゃないかな、って。これは、ずっと前から感じていたことで、その、世界と私の温度差が、怖くなっ、て、できるだけ世界から離れてみたらどうか、って、ここまで来たんだけど、分かったのは、どこにいても、同じ、ってことだけみたい。

F、横になる

B この島に昔住んでいた人が残した、塔についての手記が見つかって、塔の近くで。それに書いてあったんだけど、最初はこの島に私たちが暮らし始めたとき、火を、とても大切にしていたらしいの。今でも残ってるんだけど、こういうことは、あのね、人が亡くなったときに、そうやって火に返したんだって。火は私たちの最大の何かだ、って書いてあったの。忘れたんだけどね。で、その場所、火を起こす場所が、あの塔で。だから、そのときの人は、あの塔をととても大切にしていたらしいの。その手記にはね、最初この島は、星がたくさん見えていて、そういう神秘的なことを信じていたんだって。だけど塔ができてから、今度は塔を信じるようになって。けど、いろんな考え方の人が生まれてくるうちに、私たちは、海から生まれたから、死んだら海に還るべきだ、って、いう人たちも出てきたの。だから、全く反対の人たちね。反対のものを信じたの、まあ、昔の人は、いつでも信じるものが、ほしかったみたい。そのほかにも、土に埋めたり、死体には触れないで、そのまま自然に返す人、食べる人、燃やしてから海に、その灰をね、撒く人。いろいろいたんだけど、その違いが、今では、私たちには、いけないことには思えないんだけど、そのことはとても大切だったらしくて、その人たちには。で、塔についての考え方も変わっていくうちに、その違いも大きくなってきて。その間でも、いろんな争いはあったらしいの。そのことは、詳しく書いてなかったんだけど。死者もたくさん出たのかもしれない。それでね、いつの間にか、塔は忘れられていたんだけど。今ではちゃんと、それが、死の象徴になっているの。何があつたんだと思う？ 塔をね、死の象徴としての力を復活させるために、塔の近くで、人が殺されたの。とても大変な殺され方をしたらしいんだって。生きているうちにこんなに変われない私たちは、死によってこんなにも変えられてしまうのね。それも昔のことで、私たちはいろいろなことを知った先で、本当に存在する、て、誰かが証明してくれることだけを信じるようになったから、今は、そういうことは信じてないんだけどね。もしも、誰かが、もう一度、塔のこと、神様とか、そういうことを、証明してくれたら、私たちのうちのいくらかは、信じてしまうんじゃないかな。だって、いろんなもの信じたくて、今では自分で、そうやって死んでいく人たちが、この島にはたくさんいるもの。塔のことはわからないけど、そんな、塔のね、救世主みたいな人が現れて、その人たちを救ったときに、私たちは、その救済を、なんというのかしら。

B、椅子に

D、入れ違いで立つ

C いつまで生きていかなければいけないのだろう。人間として自分の死に方を選べるのが、実は一番尊いんじゃないかな。

D ねえ、ご飯食べべに行こう。

C うん。

H、登場

H こういう、島の話なんだけど、本当に、百億もの人が、この島に、島だけじゃなくて、例えば、隣の島を足したとして、いると思う？ この島には、緑が溢れてるからいいけど、隣の島も、緑豊かだとしてね、自然を愛する人たちは、じゃあ、その人たちは何を食べるのかとか、想像できる？ 全く違うものを食べてるのかもしれないわ。でも、あなたたちは、そうね、そもそも、この島の暮らしも、想像できない

かもしれない。でも、あなたたちのことを想像することはできるの。難しいことだけど、私たちにはそれができると思うの。だって、この島の人たちは、今は全然違うけど、本当は同じところにいたから。このお話に書かれた島を、あなたたちにまだ、見つかってないけど、あなたたちは、ここに来るの、きっと、そうなると思う。いったいどれくらい先なのか、どれくらいの人たちがたどり着けるかは、この島にいる私たちにはわからないけど、そもそも私たちも、どれくらいの数が、この島にいるのか。私たちという言葉の中に、どれだけの数が含まれてこの無人島を構成して、この島を成り立たせているのか、はっきりとは言えないけど。その境界線を引きながら、残ったものだけで、あなたたちはここまでくると思うの。その外側を、無意識のうちね、外側を取り込もうとする、広がっていくうちの一方で、遠ざけることもあって、でも、もう、そのやり場がなくなっただけに、この無人島にたどり着くと思う。これは、その、最低ライン。最低ラインっていうのは、これ以上に、あなたたちは、もつとたくさんものを持っているから。私たちに、この無人島しか無いもの。

私たちはたどり着いたこの無人島で  
生きて行くことはできないのだろうか

幕

このテキストを通して「私」という主語は使われない。台詞の多くは、他社に共感を得ようとする形で書かれている。一方で、台詞のほとんどは他者が必要としないモノログとして語られる。舞台上の登場人物は、他者の語る事柄にすべて共感しながら、自分が必要以上にパーソナルな発語の必要のない言葉を語る。現代人の偏在的な個を鮮烈に描く。

私たちは遠くない未来、百億人の無人島にたどり着くかもしれない。  
その時は、そこで改めて自分と世界を形成しなおさなければならぬ。

この物語は、現代におけるロミオとジュリエットかもしれない。

この物語は、少年Aたちが流れ着いた島かもしれない。

この物語は、誰も助けてはくれなかった十五少年漂流記かもしれない。

この物語は、日本という国家の最果てかもしれない。

この物語は、病んだといわれる社会が押し込められた精神病棟なのかもしれない。

この物語は、いつか聖地にたどり着いた後の彼らかもしれない。

このテキストは、その不可能性の中に潜む、

私たちの創造力への、長い、百億の孤独な質問かもしれない。

参考

- 『ロミオとジュリエット』ウイリアム・シェイクスピア
- 『十五少年漂流記』ジュール・ヴェルヌ
- 『イスラム国の野望』高橋和夫
- 『2015年フランス同時多発テロ事件』犯行声明 IS
- 『神戸市連続児童殺傷事件』『絶歌』元少年A 酒鬼薔薇聖人
- 『世界がもし100億人になったら』ステイブ・ン・エモット
- 『国連発表の2050年地球人口100億人予想』
- 『日本社会における現代の男女関係』
- 『現代の信仰』などの事柄にスポットを当てて執筆